

すこやかに とばごげんきん vol.39

AK 絵



うん、家に帰ったらリュックに入れてこ!

きつは、地震や災害が起きたときに持ち出す物も買っておか。



ちよと、膨らみすぎやよ。一体、何入れたん?

うん、重たいよ!



不安なときにゲームやマンガがあった方がいいかなあと思つてさ...

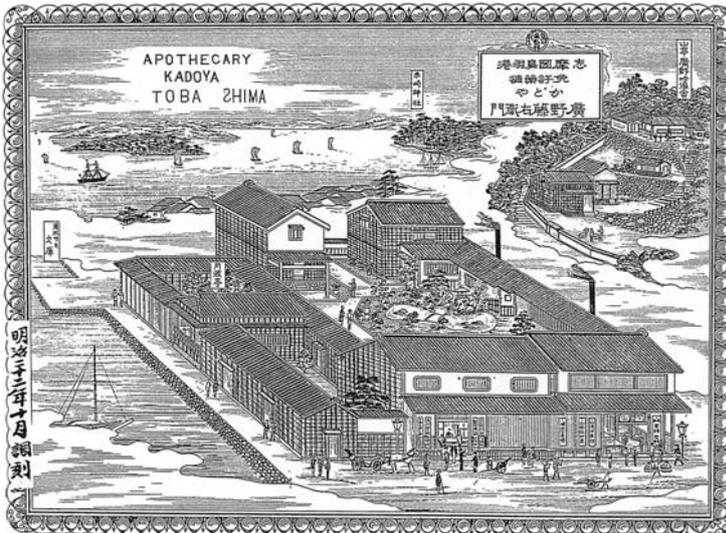
あらまあ、ゲームやマンガまで!



そっか、重すぎると、逃げるときに困るもんなあ!

とりあえず、いる物だけを詰めるんやよ。

災害が起こったときは、まず身の安全を守ることが大切です。非常持ち出し品も欲張りすぎず、自分や家族に必要なものを十分考えて持ち運べる量を準備しておきましょう。また、すぐに持ち出せる場所に置いておくことも大切です。



よみがえる「鳥羽」をみる

明治天皇が使った伽羅の火鉢

明治10年1月25日、軍艦高尾で横浜から神戸に向かっていた明治天皇は、暴風雨に遭い、佐田浜沖に緊急入港されました。翌26日に岩崎の唐人門の棧橋より上陸され、その夜は常安寺に泊まりました。このとき、明治天皇の手を温めた火鉢が残っています。香木として昔から珍重された伽羅の大木を輪切りにして作られた火鉢で、広野家から二つ貸し出されました。しばらく常安寺にありましたが、その後返却してもらったものです。箱に入れて保存されていますが、ふたを開けただけで、ハッカのような香りがします。

火鉢が保存されていた箱のふたです



明治天皇の手を温めた火鉢 伽羅の大木で作られています

江戸時代には「大庄屋」も務め、鳥羽随一の資産家といわれた広野家。平成16年に市に寄贈された広野邸から、さまざまな鳥羽の昔の姿が見えてきます。



編集と発行

総務課広報情報係

〒517-0011 鳥羽市鳥羽三丁目1-1 ☎0599-25-1114
ホームページ <http://www.city.toba.mie.jp/>
Eメール koho@city.toba.mie.jp

資源保護のために再生紙を使用しています。

木村 高島君とこ、今月第一子誕生の予定日やったなあ。
高島 はい、どうやら男の子みたいです。
木村 そうか、それは楽しみやなあ。うちはえらいドムナランボウで弱つとるけどな。
角谷 男の子はそのくらいいいんやよ。あんたらも小さいときは、親御さんを弱らせたんうちがう?
木村・高島 はい。
高島 とこで、男の子はドムナランボウですけど、女の子の場合はなんて言うんですかね?
木村 角谷さんみたいにか? それ、おてんばつて...
角谷 !? コラッ!!

編集後記
広報マン
ドムナランボウ